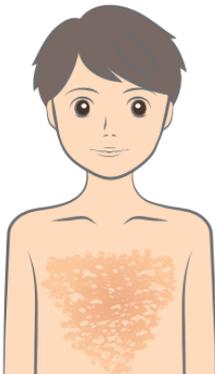


融合性細網状乳頭腫症



子どもの胸からおなかにかけて、もやもやとした湿疹が始めた。特にかゆみなどはないものの、プールなどで肌が露出するこれから季節は見た目にも気になる。。

この症状について日本皮膚科学会認定皮膚科専門医・立川皮膚科クリニックの伊東秀記先生に聞

きました。この症状について教えてください。

「融合性細網状乳頭腫症の可能性が。また他の人にもうつることもありません。」

この病気は角化異常症の一つで、胸から腹部にかけて逆三角形に網状の褐色の色素斑が広がります。かゆみなど自覚症状はなく、触ると少しざらざらとした感じがあります。発症の原因は不明で、遺伝性はありません。また他の人にもうつることもありません。

思春期から青年期に多く発症し、男性に多い病気です。

「まず視診、触診し、必要であれば生検を行い、融合性細網状乳頭腫症であるかの鑑別を行います。融合性細網状乳頭腫症であれば、ミノサイクリン塩酸塩の内服や抗真菌薬外用薬で治療します。」

見た目が気になって、自分で判断してステロイド外用薬などの塗り薬を使用したものの治らない、症状が改善しないという場合は、まずは皮膚科の医師に相談してください。

「まず視診、触診し、必要であれば生検を行い、融合性細網状乳頭腫症であるかの鑑別を行います。融合性細網状乳頭腫症であれば、ミノサイクリン塩酸塩の内服や抗真菌薬外用薬で治療します。」

休診日：日曜、祝日

診療受付時間	月	火	水	木	金	土
9:30~13:30	○	○	○	○	12:30まで受け付け	○
15:00~19:30	○	○	○	○	18:30まで受け付け	17:30まで受け付け



院長：伊東秀記  
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、東京慈恵会医科大学医学部卒業

問い合わせ  
Tel.042-843-1377  
JR「立川」駅南口徒歩2分

2022年3月25日付 「リビング多摩」に掲載されました